

本件調査の内容

環境の自然的構成要素の良好な状態の保持を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素

<p>1 大気環境(大気質＝粉じん, 騒音, 振動)</p> <p>a 大気質の評価結果 供用時のモノレールの運行による大気質の影響はないと予測されましたが, さらに, 環境保全措置を実施し環境への影響を低減することに努めます。</p> <p>b 騒音の評価結果 供用時のモノレールの運行による騒音の影響はないと予測されましたが, さらに, 環境保全措置を実施し環境への影響を低減することに努めます。</p> <p>c 振動の評価結果 供用時のモノレールの運行による振動の影響はないと予測されましたが, さらに, 環境保全措置を実施し環境への影響を低減することに努めます。</p>
<p>2 水環境(水質＝水の濁り・汚れ)</p> <p>a 水環境の評価結果</p> <ul style="list-style-type: none">・ 工事を想定 想定している内容では, 「雨水の排水」に影響があるものではなく, 環境の影響は認められないものと考えられます。・ モノレールの走行を想定 車両(モノレール)の走行は電気での駆動を想定しており, 水環境への影響はありません。 乗降場や軌条からの水の排水はないため, 「水の汚れ」の影響はありません。
<p>3 土壌にかかる環境その他の環境(地形及び地質)</p> <p>a 地形及び地質の予測・評価結果</p> <ul style="list-style-type: none">・ 現地の状況 重要な地形及び地質は存在しません。また, 若草山の斜面等の形状に大きく影響する変化は実施しないものとしてします。

生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素

<p>1 動物(重要な種及び注目すべき生息地)</p> <p>a 動物の評価結果 動物については, 影響が軽微もしくは影響はないと考えられることから, 影響は回避されているものと考えられます。</p>
<p>2 植物(重要な種及び群落)</p> <p>a 植物の評価結果 植物については, 影響が軽微もしくは影響はないと考えられることから, 影響は回避されているものと考えられます。</p>
<p>3 生態系(大径木, 鹿)</p> <p>a 生態系の評価結果 大径木はルート上に存在しないことから影響はないと考えられます。 鹿に関しては, 必要に応じて保全措置を行うことで影響は回避できているものと考えられます。 それ以外の動物・植物については影響ありません。</p>

人と自然及び文化遺産との豊かな触れ合いの確保を旨として調査、予測及び評価されるべき環境要素

1 景観＝遠景(主要な眺望点及び景観自然並びに主要な眺望景観)
a 景観の予測結果 主要な眺望点から、施設は視認できないと予測されます。
b 景観の評価結果 眺望景観を直接変更しないため、環境影響はありません。
2 人と自然の触れ合いの活動の場(主要な人と自然の触れ合いの活動の場)
a 人と自然の触れ合いの活動の場の予測結果 山麓部の軌条により、若草山の利用面積が一部減少すると予測されます。 一重目までの移動が容易になるため、より多くの人が一重目からの景観を楽しめることが想定されます。
b 人と自然の触れ合いの活動の場の評価結果
・ 工事を想定 閉山期の工事のため、若草山利用者への影響はありません。 奈良公園の閑散期の実施であるため影響は少ないと考えられますが、奈良公園観光客への影響が少ないよう配慮することが必要となります。
・ 乗降場、軌条の存在・車両の走行 乗降場の形状について、活動の場の面積が若干減少しますが、一重目までの移動が容易にできることで、現在より多様な若草山の利用が可能になると考えられます。
3 文化遺産＝中景、近景(文化財及び埋蔵文化財包蔵地)
a 文化財としての中距離景観の評価結果 (乗降場、軌条の存在・車両の走行は)中景からは視認できないため、影響はありません。
b 文化財としての近距離景観の評価結果 (乗降場、軌条の存在・車両の走行は)近景からは登山道や斜面上部より大きく視認できるため、詳細検討に当たってはデザインの検討を十分にを行い見て不快感を与えない工夫の必要があります。
4 廃棄物等(建設工事に伴う副産物、廃棄物)